



# 3つの柱 学 び (例)

「しゃぼん玉をとぼそう」(しゃぼん玉遊び) 5歳児 7月

## 《ねらい》

- 目的をもって、考えたり、工夫したり、試したり、挑戦したりする。
- 遊びや生活の中で、物の性質や量、形等に興味・関心をもち、試したり工夫したりする。

### ◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

## 《経験させたい内容》

- ◎自分で考えて材料を選んだり試したりしながら、しゃぼん玉液を作ることを楽しむ。
- ◎液の濃さや道具、息の吹きかけ方などによって、しゃぼん玉のでき方に違いがあることに気づき、工夫しながら、しゃぼん玉をとぼす楽しさを味わう。

## 《活動の概要》

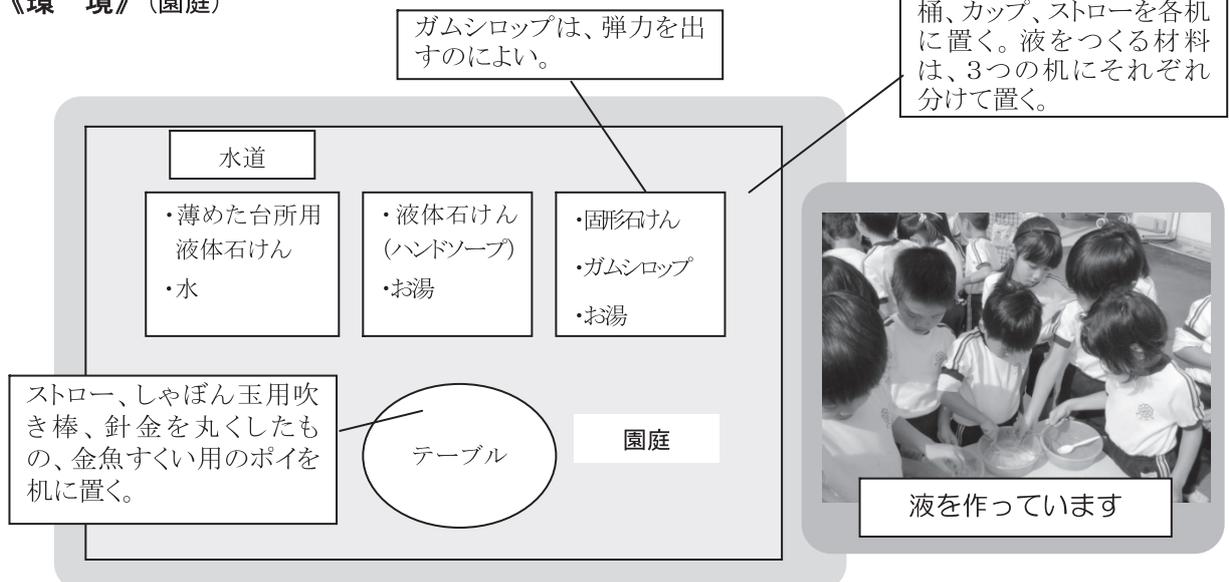
### 【前日】

・しゃぼん玉で遊んだこれまでの経験を思い出し、幼児が自分たちで作ったしゃぼん玉液を使って遊ぶことになり、方法について話し合う。

### 【当日】

- ・自分で考えて材料を選び混ぜ合わせ、しゃぼん玉液を作る。
- ・どうしたら大きくなるか、たくさんできるのか、しゃぼん玉液の材料、濃度、吹く道具、息の吹き方などを工夫して楽しむ。

## 《環境》(園庭)



前日の話し合いをもとに材料を準備する。自由に様々な材料を試せるように、グループとして固定せずに、自分が使ってみようと思う材料のある机に行き、しゃぼん玉液を作る。

### 準備した物

- おろし金で削った固形石けん
  - 薄めた台所用液体石けん
  - 液体石けん(ハンドソープ)、ガムシロップ、お湯、
  - 桶、カップ(人数分)、ストロー、しゃぼん玉用吹き棒
  - 針金を丸くしたもの、金魚すくい用のポイ
- この他、液に弾力を出すには、片栗粉、はちみつ、砂糖、グリセリン、洗濯糊がよい。

### ●安全面の配慮をしましょう

- ・誤飲に注意しましょう。ストローを使う場合は、誤って液を吸った時、液を吸い込みにくくするための針で吹き口の近くに穴をあけておくといでしょう。
- ・台所用液体石けんとは、弱アルカリ性で、「純石けん分〇〇% 脂肪酸カリウム」の表示があるものです。台所用液体洗剤の容器を見て確認しましょう。

## 《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>【前日】-----</p> <p>②以前の経験を話すうちに、「またしゃぼん玉(遊びをやりたい。）」と言う。「自分で作った液でもっと大きくしたい。」「数を増やしたい。）」と言う。</p> <p>④手を洗ったり、お風呂に入ったりすることを思い出しながら、自分なりに考え、「泡のハンドソープがいいよ。」など、使いたい材料について話す。</p> <p>【当日】-----</p> <p>②自分なりに材料を選び、量を調節しながら混ぜ、しゃぼん玉液を作り始める。</p> <p>③ストロー等の吹く道具を使って吹いてみる。</p> <p>④うまくしゃぼん玉ができないと、他の材料を混ぜ合わせ、再度吹き、何度も繰り返して試している。</p> <p>⑤友達と比べたりしながら、めざすしゃぼん玉を作ろうと何度も繰り返しながらしゃぼん液を作ったり吹いたりする。友達と一緒に作っている子どももいる。様々な吹く道具を選び、試している。</p>  <p>⑨「ぬるぬるして少しトロツとなる方が大きくできるよ。」「金魚すくい用のポイがいいよ。」「しゃぼんの泡がこわれないように、そっと吹いたほうがいいよ。」「液がストローに付きすぎると、しゃぼん玉にならずに落ちちゃうよ。」などとそれぞれ気付きや発見を言葉にする。</p> <p>⑩「ストローに付けた時、水が重たいとだめだよ。」「高いところから吹くといいよ。」などと、友達同士で伝え合う。</p> <p>⑬友達の見えも取り入れ、様々な工夫をし、しゃぼん玉遊びを楽しむ。</p> <p>⑮片付けをする。</p>	<p>①以前、市販のしゃぼん玉液を使って遊んだ経験について話題にして、今度は自分たちで作ったしゃぼん玉液で遊びたいという気持ちをもたせる。</p> <p>③しゃぼん玉が石けんの泡の仲間だということに気付かせ、どんな物を使って作ろうかと投げかける。子どもの考えや期待する気持ちを受け止める。</p> <p>⑤話し合いをもとに必要な物を用意しておく。</p> <p>①絵本「杉山きょうだいのしゃぼんだまとあそぼう」(福音館書店)を読み、しゃぼん玉遊びの楽しさやおもしろさを共有し、しゃぼん玉を作りたいという気持ちや意欲を高める。</p> <p>※参考:「杉山きょうだいのしゃぼんだまとあそぼう」(福音館書店) 文と構成:杉山弘之、杉山輝行 写真:吉村則人 絵:平野恵理子</p> <p>⑥個々にどんな材料を混ぜたのかを聞いたり、うまくできている子どもに作り方を聞いたりなど友達の取組の様子を知らせ、互いに刺激し合えるようにする。</p> <p>⑦うまくできないからとすぐに諦めてしまわぬよう、「今、少ししゃぼん玉ができていたよ。」などと少しの変化にも気付かせていく。</p> <p>⑧なかなかしゃぼん玉のできない子どもには、吹いた様子を見て、一緒に考えたり、友達同士で見合う機会を作ったりしながら、うまくいく方法に気付かせていく。(例)液の濃度が適切でない場合には、「お水が多いのかな。」と液の濃さに気付かせる。</p> <p>⑩子どもの気付きや発見に共感し、液や吹く道具、息の吹きかけ方や付ける液の量などによって、しゃぼん玉のでき方や大きさ、量が違うことに気付かせていく。</p> <p>⑫気付きや発見を友達に伝え合う姿を認め、液を互いに試したり、友達の気付きや発見を取り入れたりできるようにし、友達同士で認め合えるようにしていく。</p> <p>⑭工夫したり試したりして遊ぶことは楽しいという子どもの思いに共感していく。</p>

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

生活

人のかかわり

学び

### 3つの柱

## 学 び

#### ◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 自分なりの目的に向けて、考えたり、工夫したり、試したり、挑戦したり、できるように遊具や材料、時間を十分に保障する。
- 子どもたちが工夫したり、試したりできるように、保育者が、事前に安全面や衛生面も含めて、用具や材料等の特性や扱い方、教育・保育への取り入れ方を明確にし、指導に当たるようにする。

#### ◆小学校につながる点

- 様々な素材に触れ、その性質や数量、形などに興味・関心を持ち、自分なりに考えたり、工夫したり、試したり、挑戦したりすることは、主体的な学びであり、小学校の学びの基礎につながる。



## 3つの柱

## 学 び (例)

「さつまいもがとれたよ」(さつまいもの収穫)

5歳児 10月

## 《ねらい》

- 季節の変化に気付いて、表現したり、自然物を取り入れたりして遊ぶ。
- 生活や遊びの中で数量・文字に関する感覚を豊かにする。

## ◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

## 《経験させたい内容》

- ◎収穫の喜びを味わう。
- ◎芋の大きさや形などに興味をもち、数を数えたり大きさや重さを比べたり、形を様々なものに見立てたりする。
- ◎自然物を遊びの中に取り入れて遊ぶことを楽しむ。

## 《活動の概要》

## 【事前】

- ・春に畑にうねを作り、芋の苗を植える。
- ・毎日、幼児が当番で水やりと草取りをする。
- ・全員で芋の様子を見に行き、収穫について話し合う。
- ・前日に「さつまいも」の絵本を見て、期待をもてるようにする。

## 【当日】

- ・畑に行く。\*芋掘り遠足後の活動としても行える。
- ・畑の芋を掘り、収穫した芋をひとまとめにする。
- ・収穫した芋をく大><中><小>に分け、大きさや重さ、数に関心をもつ。
- ・芋のつるを使っての長さ比べや縄跳びや綱引きなどをする。

## 【事後】

- ・後日、収穫した芋を蒸かして、3・4歳児クラスや小学生と一緒に会食する。
- ・芋のつるを丸めて干しておき、12月に「リースづくり」を行う。

## 《環 境》(畑・その後園庭や校庭)

## ※参考

「さつまいものおいも」(アリス館) 作:中川ひろたか 絵:村上康成



たくさんとれたよ



つるの長さ比べ



縄跳びができそう

## 《活動の展開》

子どもの姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>②「いっぱい掘れるといいね。」と話しながら畑に行く。</p> <p>③芋の収穫をする。「こんなに大きいのが掘れたよ。」 「赤ちゃん芋だよ。」と喜ぶ。</p> <p>⑤収穫した芋を持って、友達同士で見せ合う。「これは大きいよ。」「こっちの方が大きいよ。」と大きさを比べたり、「これは、赤ちゃんだから小さいよね。」と言ったりする。</p> <p>⑦「これは重いよ。もってごらん。」「本当だ。こっちは軽いよ。」などと重さを比べる。「このお芋は穴がいっぱい。」と気付いたことを言う。</p> <p>⑩芋を大・中・小のグループに分けて置く。 「大きいお芋も結構とれたね。」「小さい芋が一番多いね。」などと大きさごとの芋の量に気持ちが向き、気付いたことを言い合う。</p> <p>⑫山になっている大きい芋の数を数え始める。「あれ、これ数えたっけ？」と途中で分からなくなってしまう。</p> <p>⑭芋を一列に並べ始める幼児がいる。</p> <p>⑯並べた芋を数える。「23個だ。すごい。」「23だって。」と友達同士伝え合う。</p> <p>⑰「じゃ、中ぐらいのも数えてみよう。」「小さい芋を数えよう。」と数え始める。「45個もある。」「こっちは30。」などと口々に言い合う。</p> <p>⑳「ねえ、これ縄跳びみたいだね。」と、芋のつるを縄跳びに見立てて跳ぶ。 「引っ張りっこしよう。」「うん。」芋のつるの両端を持って綱引きをする。 芋のつるを地面に並べて長さを比べる。</p>	<p>①「大きくなっているかなあ。」などと収穫に期待がもてるような言葉かけをする。</p> <p>④芋を収穫した喜びを感じている姿、<u>様々な見立てやイメージを楽しむ姿に共感する。</u></p> <p>⑥「大きいね。」「重いね。」「長いね。」「かたいね。」などの言葉をつぶやき、<u>幼児が芋を持ったり触ったりする中で、大きさや重さ、長さの感覚を感じ取らせる。手触りなどにも興味がもてるようにする。</u></p> <p>⑧<u>幼児の気付きを受け止め、周りに広げていく。</u></p> <p>⑨物の大きさや形を意識できるように大・中・小に分類することを投げかける。<u>テーブルやシートを設定し、大・中・小に芋を分けて置けるようにする。分類に迷っている時には、他の芋と比べて決められるようにする。</u></p> <p>⑪「大きいお芋はいくつとれたのかな？」などと<u>数や量に関心をもたせる。</u></p> <p>⑬「どうしよう。数えたか、数えないかわからなくなっちゃうね。」と言う。</p> <p>⑮「なるほど、並べれば間違えないね。」</p> <p>⑰「23個、たくさん採れたね。よかったね。」</p> <p>⑲「45個もあったの？すごいね。」と幼児に共感する。 ※ 4～50個ほどになる場合は正確さを求めずに多量さに感動することなど量感覚を豊かにすることでよい。 ※ 芋の重さに関心をもつ子どもがいた場合には、たとえば、大きい芋1つで小さい芋2つ分というように重さ比べをしてもよい。大きい芋の数は少ないが全体量が多いというような数と量の関係に触れてもよい。</p> <p>⑳自分たちなりに芋のつるを何かに見立てて遊び始めている姿を認める。その中で、「短い」「長い」に興味・関心がもてるよう声をかけたり、子どもたちと一緒に並べて<u>比べたりする。</u></p>

3歳児

4歳児

5歳児

一年生

生活

人のかかわり

学び

### 3つの柱

## 学 び

#### ◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 子どもが、自然の変化や栽培物の生長に気付いたり、発見や感動が味わえたりできるような環境を整える。
- 遊びの中で、身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で必要感に基づく体験を大事にし、文字・数量・図形に興味・関心がもてるような環境づくりや働き掛けをしていく。

#### ◆小学校につながる点

- 意図的に環境を構成し、遊びや生活に数量や文字を取り入れ、数量や文字の感覚を豊かにするような体験を積み重ねることが、小学校の学習活動につながる。



## 3つの柱

## 学 び (例)

「友達と一緒におばけやしきごっこをしよう」(おばけ屋敷ごっこ) 5歳児 1月

## 《ねらい》

- 友達と共通の目的をもち、感じたことや考えたことを言葉で伝え、受け止め合いながら遊ぶ楽しさを味わう。
- 自分なりの課題に向かって、あきらめずに取り組みやりとげた喜びを味わう。
- イメージを友達と一緒に動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりすることを楽しむ。

## ◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

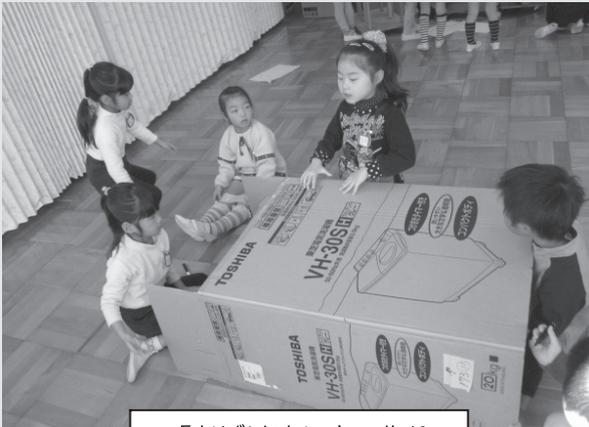
## 《経験させたい内容》

- ◎グループの友達と一緒に共通の目的に向けて役割分担したり話し合ったりして取り組む。
- ◎感じたこと考えたことを言葉で相手に伝え、受け止め合って進めようとする。
- ◎新しい素材の使い方や特性を知る。
- ◎自分なりにこだわって、本物らしく作ろうとする。
- ◎自分たちで工夫したり考えたりして、おばけ屋敷のしかけや効果音作りを進める。

## 《活動の概要》

- ・絵本からの「おばけ」のイメージや昨年度、年長組にやってもらった「おばけやしき」のこと、遠足に行った経験などを思い出し、自分たちも「おばけやしきごっこ」をやろうという思いをもつ。
- ・グループで使う材料や場の使い方などを話し合っ設計図を作り、役割を分担する。
- ・グループごとに設計図を基に場や乗り物、衣装など必要な物を作る。
- ・「おばけやしき」ができあがったら、自分たちで入ってみたり、友達と役割を交代したりする。
- ・自分たちで役割を交代して楽しんだ後に、4歳児や3歳児の子どもたちを招待する。

## 《環 境》(遊戯室・ホールなど)



「おばけやしき」作り

## &lt;あるとよい物&gt;

- ・ブラックライト
- ・お化けの効果音
- ・段ボールカッター
- ・実物投影機
- ・段ボール
- ・カセットテープレコーダー
- ・蛍光絵の具
- ・暗幕
- ・伸びる包帯
- ・懐中電灯
- ・蛍光紙
- など

「おばけやしきごっこ」  
の他にも考えられます

ジェットコースターやメーリーゴーランドなどのアトラクションをグループ毎に作り、「遊園地ごっこ」を行うこともできる。

《活動の展開》

子 ども の 姿	保育者の援助・環境の再構成 下線は、経験させたい内容にかかわる援助
<p>①昨年度の5歳児の姿や絵本などから「自分たちもおばけやしきごっこをしよう。」という思いをもつ。</p> <p>②イメージを出し、話し合い、設計図作りをする。「ここは、迷路みたいにしよう。」「おどかすのは、みんなでやろう。」とそれぞれがアイデアを出す。出し合ったアイデアを紙に描いていく。</p> <p>④設計図を基に「おばけやしき」作りを始める。おばけの絵を描く人、迷路の場を作る人など役割を分担して進める。</p> <p>⑥「僕は、おどかす係じゃなくちゃいやだよ。」「わたし、色塗りするのいやだ、音楽作る人がやりたい。」など、自分のやりたいことを主張して、引かない。</p> <p>⑧新たなアイデアが浮かび、「ミイラ出てくるのはどう?」「いいね。」「ミイラが飛び出してくると、もっといいんじゃない?」と話しながら進めていく。</p> <p>⑩「おどかす係」「入口係」などの役割分担をする。「いつも入口係ばかりいやだ。」と言う幼児が出てくる。「じゃあ、お客さんが5人来たら交代。」とグループで話し合っ決めて。</p> <p>⑫「ミイラは包帯をまかなくちゃ。」「布に穴をあけて見えるようにしよう。」と話しながらおばけの衣装作りをする。</p> <p>⑬自分たちで怖い声を出したり、様々な楽器、音楽CDやテープなどを使ったりして「おばけやしき」の効果音を考える。</p> <p>⑯友達にお客さんで来てもらう。</p> <p>⑰「本当に怖かったよ。」「暗くて歩きにくかった。」など、お客さんになった幼児が感じたことを話す。</p> <p>⑱友達の意見を基に、おどかし方を変えたり、懐中電灯を使ったりするなど意見を出し合い、協力しながらさらに工夫する。</p> <p>【後日】 -----</p>	<p>③<u>それぞれの子どもが自分の思いを言葉に出して伝えている姿や、相手の話を聞いて進めていこうとしている姿を十分に認める。</u>また、それぞれの思いや考えを確認し合えるような言葉掛けをして、イメージが共通になるようにする。</p> <p>⑤自分たちで工夫したり考えたりしている姿を認める言葉掛けをする。</p> <p>⑦<u>自分のやりたいことを主張して引かない姿が見られたときは、子どもたちに投げかけ、どうするか考えあい、解決できるようにする。</u></p> <p>⑨より「おばけやしき」が面白くなるように、<u>ブラックライトや蛍光絵の具を提示したり、作り方のアイデアを知らせたり、一緒に材料を探したりする。</u></p> <p>⑪自分たちで話し合っ決めていく姿を認めるとともに、みんなが納得する形で話し合いが終わっているかを見る。</p> <p>⑭<u>場や衣装作りや効果音に使えるものを提示できるように用意したり、環境として設定したりする。</u></p> <p>⑮<u>場や小道具などができ始めたら使用する場に暗幕を張り、暗くなるようにする。暗くなった中でブラックライトや衣装の見え方を自分たちなりに試せるようにする。</u></p> <p>⑰できるだけ自分たちで進められるように見守り、必要に応じて援助するようにする。</p> <p>⑱<u>お客さんで来た子どもが、感じたことや気付いたことなどを伝える機会を全体で設ける。保育者も客となって参加し、気付いたことを伝え、自分たちで協力して改善していこうとするきっかけとなるようにする。</u></p>
<p>①後日、「おばけやしき」に4歳児、3歳児を招待する。</p>	<p>②4歳児、3歳児の怖がる姿、喜ぶ姿、楽しんでいる姿を言葉で伝えながら、やりとげた満足感を味わえるようにする。</p>

3歳児  
4歳児  
5歳児  
一年生  
生活  
人とかかわり  
学び

3つの柱 学 び

◆この時期の援助・環境の構成のポイント

- 自分たちの力でできたという満足感や達成感もてるような素材、材料を準備する。
- 課題が明確にもてるように、内容や取り組み方を分かりやすくし、自分の力を十分に発揮して活動できるように配慮する。また、自分なりに考えて、工夫したり、試したりすることが繰り返せるような場や材料を用意する。
- グループの課題を共通の目的として受け止め、自分の考えや思いを出し合ったり、認め合ったりして進めていけるように保育者が力関係の調整や橋渡しなどをする。

◆小学校につながる点

- 共通の目的に向けて、友達と考えを出し合いながら協力して進めていくことが、小学校以降の効果的なグループ学習の実施やコミュニケーション能力の向上につながる。



# 3つの柱 学 び (例)

「遊園地ごっこ・数・秋の自然」

5歳児

◆保育・教育の実践において重視する点

- 1 主体的な活動、協同的な遊び
- 2 見る、聞く、話す力の育成
- 3 計画性・柔軟性のある環境・援助

◎…経験させたい内容  …援助のポイント  …例

## 《協同的な遊び》

◎友達と共通の目的をもち、感じたことや考えを言葉で伝え、受け止め合いながら遊ぶ楽しさを味わう

◎教材・用具などを自分たちで選び、感じたことや考えたことをいろいろな表現方法で表すことを楽しむ

(1~3月)

①グループの人数や数

実態や経験させたい内容により、人数、メンバー構成、どのような観点で集まるか・集まっているか(好きな人・やりたいもの・生活グループ等)を考える。

②共通の目的

イメージが共通になるような環境を整えていく。(絵本・共通体験・イメージを共通にするような事物等)

③選びやすい環境

材料や用具などを取り出しやすいように置く。子どもの動きや話し合いの様子により 新しい物を加えるなど再構成していく。

④話し合い活動の援助

子どもたち全員が話し合う内容を具体的に理解できるようにする。集中して話し合える時間や話し合う時期を考え調整する。(作る・演じるなど動くことで、イメージが具体的にになり共通になることもある)

⑤よさの認め合い

一人一人の子どもが力を発揮できるようにする。友達のよさや頑張り、協力する楽しさなどを保育士・教員が言葉にし、子どもの動きや思いなどを意味付けしていく。

⑥見通しをもった活動

遊びの目的を明確にもち、それに向けてどのように進めていくのかを、子ども自身が意識できるように援助する。今後の遊びの流れが理解できるよう、これからの予定を子どもたちと紙に書き出す等工夫する。

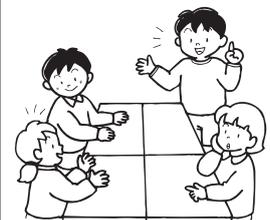
《一例として…遊園地ごっこ》

下線部①~⑥は環境・援助に対応

〜〜環境として、②遊園地への遠足で撮った写真を掲示する。③製作コーナーには乗り物を作るのに使いそうな材料や用具を選びやすいように置いておく。タクシーを作るグループのA児が、タクシーには屋根があることに気付く。それぞれ考えを言い合う。⑤保育士・教員は、子どもの考えに共感する。B児が段ボールの上に布をかける。屋根にはなったが低くすぎる。「だめだ、これじゃ頭がぶつかる」「ここに棒みたいのを立てたらどうか」「うん、でも布だとダランとなるから、もっと硬いものがないよ」などと考え合う。⑤屋根の作り方についての考えを引き出すような言葉を掛ける。③話し合いの様子を見て、使いそうな材料を製作コーナーに加える。⑤友達と試したり考え合ったりしている姿を認める。⑥活動の終わりに、子供たちと今後の進め方について話し合い、明日を確認する。

話し合いでは、次のような観点で見、援助しましょう

- 1 一人一人、思いの伝え合いができていないか 友達の考えも聞いているか
- 2 皆が話し合いに参加しているか
- 3 話し合いの内容からずれていっていないか
- 4 解決に向かう方向で話し合っているか 自分の考えの理由を言っているか
- 5 みんなが納得する形で話し合いが終わったか



## 《文字・数量・図形に関する感覚》

◎文字や数量・図形に興味をもち、遊びの中に取り入れようとする

◎生活や遊びの中で数量・文字に関する感覚を豊かにする(10～12月)

### ①興味のもてる環境

玩具の置き方を工夫し生活の中で文字や数量・図形に関する興味が自然にもてるようにする。

### ②活動の意味付け

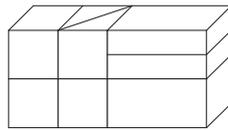
子どもがしていることを保育士・教員が言葉で表し、子どもが活動の意味を確認できるようにする。

### ③指導の工夫

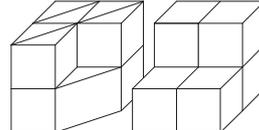
数量・図形・文字・時計へ興味をもたせるよう、普段何気なく行っていることを見返し、活動の方法や指示の出し方などを工夫する。



1 2 3 4 5 と番号をつける



一つのきれいな形に収める。おおまかな形の分類は必要



同じ形で集めて置く。必要な形を選びやすい。



写真や絵と文字で表示する

①数の順序 ①5の合成・分解

①形の組み合わせ

①形の分類

①文字

《一例として…》 下線部①～③は環境・援助に対応 ②チームの人数を同じにしようと考え合っている。「〇〇ちゃん、こっちのチームに入って」と友達を誘っているとき、「なるほど、一人入れば、5人ずつで同じになるんだね」とつぶやく ③ごっこ遊びの看板やチケット作りなど文字に関心をもてるよう、援助をする。③カルタ作りの活動をする ③「前から3番目の人」や「2枚ずつとってください」などと指示する。③昆虫や魚の体形など自然の中の様々な形に気付かせる ③欠席者の数を調べる。人数合わせのゲームをする。(「猛獣狩に行こうよ」等)

## 《自然や身近な事象への気付き》

◎季節の変化に気付いて、表現したり自然物を取り入れたりして遊ぶ

◎工夫して作ったり試したり、友達の気付きを取り入れたりする(10～12月)

### ①様々な感覚

子どもの興味・関心を高めるような環境、音、形、手触り、動き、味、香り等に気付き、全身で感じ取る体験ができる環境を工夫する。

### ②共感と質問

美しさ・不思議さなどの心の動き、感動する体験を十分に味わわせる。子どもの気付きを受け止めるとともにさらに気付きが広がるように援助する。そばで、子どもと一緒に驚いたり不思議がったりする存在が子どもの学びを支える。

### ③友達とつなぐ

友達の刺激を受けて学びが豊かになるようにする。言葉かけや場の取り方等工夫する。

### 《一例として…秋の自然》 下線部①～③は環境・援助に対応

(①)自然に関する絵本・図鑑等を保育室に用意しておく。(①)季節の変化を感じ取りやすいよう、春・秋と同じ公園に出かける。友達のかかわりを促すため、(③)グループごとに行動するようにする。(②)保育士・教員は、葉の色の違いに気付いた子どもの発見を受け止め、言葉にしていくとともに他の色や葉の形、木、風等さらに気付きを広げたり深めたりする言葉をかける。(①)収集した自然物を使った製作ができるような環境(教材・用具、場所等)を整える。(③)友達の製作物を効果的に掲示する。

《小学校につながる点》 〇共通の目的に向けて、友達と考えを出し合い協力して進めていくことは、小学校以降の学び合いやコミュニケーション力の向上につながる。

〇数量や文字に関する感覚、様々な気付きを保育士・教員自身が意識して指導を重ねることにより、実体験に基づく学びとなり、小学校の学習につながる。

## 幼児同士の交流活動（例）

「公園で一緒に遊ぼう」（近隣の公園での交流活動）

5歳児 6月

### ねらい

- 近隣の幼稚園、保育園の子どもたちが交流活動を通して親しみをもつ。
- 交流活動を通じて、園内外の多くの友達とかかわって遊ぶ楽しさを味わう。

### 事前の指導

- 近隣にある幼稚園・保育園と交流（一緒に遊ぶ）をすることになったことを伝える。
- 交流する幼稚園・保育園の場所、交流活動を行う場所を地域の目標となる建物などで確認をして、どのような遊びをしたいかを話し合う。
- 幼稚園・保育園のクラス人数やクラス名などを伝え、知っている友達などの名前を話したり、近くに住む友達と触れ合うことに期待したりして、当日を楽しみに迎えるようにする。

### 事前の打ち合わせ

- 園長や保育者同士が連携する機会などを通して、園の情報交換をするなかで、交流活動の取組を提案する。年間の活動予定に位置付け、具体的な計画を進めるために連絡を取り合う。
- 確認した内容
  - ・日時、場所、初めての交流活動に適した保育内容、一緒にする遊び等について
  - ・持ち物、当日の保育者の役割分担
  - ・互いの園の保育や配慮の必要な園児の様子等

### 交流の計画

時刻	子どもの活動	保育者の援助・環境の再構
10:40	②近隣公園に互いの園児が集合する。 ④元気にあいさつをする。 ⑥保育者の話を聞く。	①園児を連れて交流活動の場所（近隣の公園）に行く。 ③互いに自己紹介し、大きな声であいさつをする。 ⑤今日の交流の目的と内容を分かりやすく確認する。初めて出会う子どもたちの気分がほぐれるように両園で普段行っている体操などを取り入れる。
10:45	⑧初めて会った他園の子どもを気にしながらも同じ園の友達同士が近くに集まり体操ができるように広がっている。 ⑩最初は戸惑っていた子どもも徐々に曲に合わせて楽しそうに体を動かす。 ⑫保育者の話を聞く。 保育者の話を聞き、うれしそうに「そのゲーム知っている。」と言う。	⑦「はじめにみんなの知っている〇〇体操を一緒にします。ぶつからないように広がりましょう。」 ⑨子どもたちの中に入り一緒に体操を行いながら、それぞれの園児の様子を見る。 ⑪体操で気分が少しほぐれてきた様子を見て、「人数ゲーム」の開始を伝える。開始するためのルールを確認する。 「はじめてのお友達とも集まれるといいね。」などと声をかけて始める。
10:50	⑬はじめは同じ園の友達同士が集まっている。ゲームが進んでいくうちに、双方の園の園児が混ざり合うようになる。	

はじめての友達と一緒に「人数ゲーム」

<p>11:00</p>	<p>⑮戸惑いながらも他園の子どもの多いグループに移る子どももいる。</p> <p>⑯保育者の話を聞く。</p> <p>⑰好きな遊びをする。 同じ園の友達と虫探しを始める。 相手の園の子ともと遊びたそうにしている。 「高鬼」をする。</p>	<p>⑭様子を見ながら「あっちが足りないみたいよ。」など混ざり合えるきっかけとなるような声を掛ける。</p> <p>⑯「はじめてのお友達ともグループになれたかな？」など声掛けをしていき、子どもの様子を見守る。</p> <p>⑰一斉での遊びは終わり、これから好きな遊びを選んですることを伝える。公園内の遊び方、約束事を伝え、危険がないように見守る。</p> <p>⑱「高鬼」に誘う 保育者は相手の園の子どもの名前を呼ぶ等、積極的にかかわり、親しみをもてるようにする。また子どもが互いに名前を覚えるきっかけにしておく。</p>
<p>11:15</p>	<p>⑲集合して保育者の話を聞く。</p> <p>⑳「楽しかった。」「また今度も遊びたい。」「もっと遊びたかった。」など声が聞かれる。</p>	<p>⑲集合時間であることを伝え、子どもに互いに声を掛け合うように促す。人員を確認する。</p> <p>㉑子どもに感想を聞く。 「今日は初めてのお友達と遊んだけど、どうだった?」「一緒に遊べて楽しかったね。」と交流活動の楽しさを各自振り返る機会をもつ。</p>
<p>11:20</p>	<p>㉒あいさつをして園に戻る。</p>	



お互いの名前を呼んでの「高鬼」



「こんな虫がいたよ」

### 事後の指導

- 園に帰る途中に楽しかったことや園の外で会ったことのある友達の話などを話す。楽しかった気持ちに共感し、また遊びたいという気持ちが高まるようにする。
- 翌日、交流の感想をみんなで伝え合い、もっと仲よくなるためにはどうしたらよいかを意見を言う。
- 一緒に行った体操を楽しむ姿がある。次の交流に期待をもっている幼児の気持ちを園での活動で活かしていく。また、近隣に住んでいる幼児と積極的に交わっていかうとする気持ちを大切にする。

### 事後の意見交換

- 事後の幼児の様子を情報交換する。互いに負担がないよう、継続して交流活動を行っていくことを確認する。
- 次回の交流活動について、連絡を取り計画していく。

### 家庭への働き掛け

- 交流当日、写真とともに交流活動の内容を掲示して保護者に知らせる。また、「クラスだより」などを発行した際に交流活動について取り上げてその内容や意義について知らせていく。

## 幼児同士の交流活動

### ◆交流をすすめる際の配慮点

- 他園の幼児と自らがかわりを求めていくには時間がかかるので、初めての交流では、幼児の不安な気持ちを受け止めながら仲立ちをし、徐々に親しみをもてるようにする。
- 保育者が、交流に対して共通の目的意識をもって取り組む。

### ◆小学校につながる点

- 同じ地域には様々な友達がいることを知り、つながりを広げることにつながる。

# 幼児・児童の交流活動（例） 7月

幼児 「1年生の朝顔まつりに招待されたよ」 5歳児

児童 「朝顔まつりをしよう」 1年生（指導時数1時間）

## 活動のねらい 幼児

○1年生や小学校の先生に自分なりにかかわりながら楽しみ、小学校の様子や児童に関心をもつ。

## 活動のねらい 児童

○自分たちがしたことを幼児が楽しんでいる姿を見たり、世話をしたりすることに喜びを感じる。

## 事前の指導 幼児

- 「朝顔市」で出店や朝顔を見学し、楽しい雰囲気を味わえるようにする。1年生から説明してもらった「招待カード」を見たり地域の「朝顔市」を思い出したりして、1年生がする「朝顔まつり」に興味・関心をもてるようにする。
- 「招待カード」に名前を書き、書けない幼児は保育者が手伝いながら、自分で保管するようにする。

## 事前の指導 児童

- 地域の「朝顔市」を見学し、1年生の「朝顔まつり」をすることを提案し、幼児を招待する思いをもてるようにする。自分たちの出店に期待感や意欲をもち、積極的に考えられるようにする。
- 幼児たちがどんなことをしたいか、どんなことに困るかなどを話し合い、当日の動きを予想できるようにする。
- 招待する思いが高まるように、「招待カード」（出店の種類が分かり、当日スタンプを押すもの）を作成し、園に届けるようにする。

## 幼児の保護者への働き掛け

- 活動の様子や幼児と児童の具体的なかかわりについて写真などを使って伝え、5歳児の発達の状況を知らせていく。
- 5歳児になると、保護者が文字や生活面などに対し急に働き掛けを始めることがある。子どもが入学に期待をもてるように、焦らずに共に興味を示していくことが大切であることを保護者に伝えていく。



## 交流の計画

時刻	幼児の活動	児童の活動	○：配慮事項
9:45	1 あいさつをする。 2 小学校の先生の話聞く。	1 あいさつをする。 2 どこにどんなお店があるか発表し、困った時には1年生に聞くことを話す。	○児童:幼児にどのようにかかわるかなどを話しながら、期待をふくらませる。 ○幼児:不安にならないように、あらかじめ二人組をつくり行動できるようにする。 ○児童:お店の人としての動きを、具体的に認め、自信をもてるようにする。また、周りの児童への刺激となるよう声
9:55	3 幼児で二人組になり出店に行く。 ・友達と相談しながら、どのお店（食べ物、ゲームなど）に行くか決める。	3 お店の人になる。 ・お客の「招待カード」にスタンプを押す。 ・「どの味がいいですか?」「ここから投げてください。」など、お店の人になりきって、何のお店か、どうしたらよいかなど分かるように言葉で伝えたり、動きで知らせたりする。	

<p>・どうしていいか分からなかったり、出店の場所が分からなかったりして、戸惑っている幼児もいる。</p>	<p>・お店を探していたり、困っていたりしている幼児に声を掛ける。          ・お店の人になることに一生懸命で、幼児の姿に気付かなかったり、言葉で上手く伝えられなかったりする児童もいるので、同じお店の児童同士で声を掛け合う。</p>	<p>を掛ける。          ○児童: 幼児の思いに気持ちが向くように声を掛ける。          ○幼児: 保育者や小学校の教師が幼児に「1年生に聞いてみよう。」と声掛けし交流ができるように配慮する。          評価) 幼児: 「朝顔まつり」を楽しみ、1年生や小学校の教師とかかわる中で親しみを感じたか。          児童: 幼児を楽しませたり、役に立ったりしたこと、喜びを感じられたか。計画どおりにお店が実現できたか。</p>
<p>10:20</p>	<p>4 みんなで集まる。          ・楽しかったことや印象に残ったことなどの感想を言う。          ・お礼を言う。</p>	<p>4 みんなで集まる。          ・幼児に喜んでもらえたことなどの感想を言う。          ・お礼を言う。</p>

#### 事後の指導 幼児

- 「朝顔まつり」を振り返り、「朝顔まつり」のよさや楽しさを話し合う。
- ・自分がどんなことをしてきたか、どんなことが楽しかったか、うれしかったことなどを、クラス全体で話す。
- ・1年生が準備をしてくれたこと、世話をしてくれたことなどを振り返る。

#### 事後の指導 児童

- お店の運営や幼児への対応で工夫したことやしっかりできたことを発表する。
- 「朝顔まつり」をした感想を出し合い、よかったところを教師が認め、「朝顔まつり」をして幼児に来てもらえてよかったという思いを高めるようにする。
- 困ったこと、気付いたことを出し合い、どのようにするとよいか、自分だったらどうするかなどを話し合う。
- 次は、幼児とどんなことをしたいか話し合い、次回に期待をもてるようにする。

#### 事後の保育者と教師の話し合い

- 幼児・児童がそれぞれどんなことを経験していたか、ねらいに沿った活動であったか。また、その時の保育者の援助・指導はどうだったかを振り返り、評価する。
- 今回の経験をどう活かして次回はどのような活動や計画にするか、話し合う。

## 幼児と児童の交流活動

### ◆交流をすすめる際の配慮点

- 小学校の教育活動のなかで幼児と児童が交流することで、幼児には児童へのあこがれや小学校生活への期待感を高めるようにし、児童には自分の成長への気付きや幼児への思いやりの気持ちを育むようにする。
- 5歳児と1年生の交流は、年齢が近く身近な仲間であるという意識から、それぞれの学びに活かしやすく互恵性が生まれやすい。保育者と教師が、交流に対して共通の目的意識をもって取り組むようにする。

### ◆小学校につながる点

- 小学校との交流活動は幼児の小学校生活への不安を解消し、児童へのあこがれや小学校生活への期待感を高めていく。小学校の教育活動において児童の活動の様子に触れることで小学校の「ひと・もの・こと」に興味や関心をもち、小学校への円滑な接続につながる。

# 幼児・児童の交流活動（例） 9月

幼児 「ようこそ5年生」 5歳児

児童 「来年の1年生に小学校のことを教えてあげよう」 5年生（指導時数1時間）

## 活動のねらい 幼児

小学校の先生から話を聞いたり、5年生と交流したりすることを通して小学校の児童や先生、学校、そこで行われている教育活動に関心をもつ。

## 活動のねらい 児童

幼稚園・保育園・こども園を訪問し、幼児と触れ合い、11月の「就学時健康診断」の係活動へ意欲をもつ。

## 事前の指導 幼児

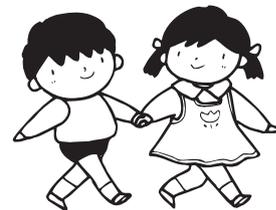
- 9月になり、入学する小学校の話題などが出てきている中、小学校の5年生が園を訪問して、小学校の説明をしてくれるという話を伝える。
- 小学校生活への期待や不安について話し合う。5年生が来園したときに聞いてみたいことを話し合う。
- お礼の気持ちをこめて、5年生と一緒にできる遊びなどを計画する。

## 事前の指導 児童

- 11月の「就学時健康診断」の手伝いをするようになったことを伝え、交流活動へ意欲をもたせる。
- 小学校に幼児を迎える前の交流活動で幼児の不安を軽減して、温かく迎えてあげたい気持ちを活かしていく。
- 幼稚園・保育園・こども園を訪問し、幼児と親しみ小学校の紹介をしてくるようにする。

## 幼児の保護者への働きかけ

- 入学する小学校が決まる頃である。小学校の入学に向けてこれまでの生活を振り返り準備をしていくように伝える。
- 小学校との交流活動や11月に、小学校で「就学時健康診断」が予定されていることを掲示板などで保護者に伝える。



## 交流の計画

時間	幼児の活動	児童の活動	○配慮事項・評価
9:35 ～ 10:20	1 あいさつをする 2 小学校の先生の話聞く。	・園を訪問する。 1 あいさつをする。 2 担任の先生から訪問の趣旨について話をする。	○検査内容説明のため養護教諭が一緒に行くことよい。 ○児童には訪問のマナーを守るように事前に指導する。
2校時	3 児童の説明を聞く。 ・小学校の説明を椅子に座って集中して聞く。 ・分からないことは最後に質問する。 4 幼児から聞きたいことをた	3 小学校の説明を児童が分担して行う。 ・学校の建物、一日の生活 ・給食、行事について 4 幼児の質問に答える。	○幼児は椅子に座って話を聞くようにする。

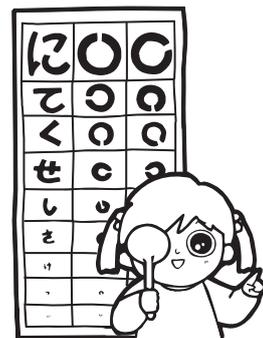
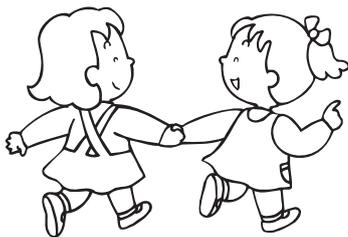
	<p>ずねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園の先生が指名する。</li> <li>返事をして立ち、みんなに聞こえるような声で発言する。</li> </ul> <p>5 就学時健康診断についての話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学校に行って、お医者さんたちに検査をしてもらおうよ。」という程度の内容にとどめる。</li> </ul> <p>6 児童と一緒に読み聞かせを聞いたり、遊んだりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>絵本の読み聞かせを聞く。</li> <li>手遊び歌などをする。</li> </ul> <p>7 お礼を言って見送る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループの幼児が楽しかったことなどの感想を言う。</li> <li>全員でお礼を言う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当の児童が答える。</li> </ul> <p>5 就学時健康診断について簡単に説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>養護教諭が補足説明をする。</li> <li>5年生と一緒に健康診断を回ることを伝えて不安感をなくすようにする。</li> </ul> <p>6 児童が読み聞かせを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループに分かれて絵本を読んであげる。</li> <li>一緒に遊ぶ。</li> </ul> <p>7 あいさつをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>来校することを待っていることを伝えて、園を出る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設や行事などの写真や掲示物等を利用して分かりやすいように説明する。新規に作成せずに既存のものを活用するとよい。</li> <li>○「みんなが学校に行くとき5年生がお世話をしてくれるそうだよ。」と声をかけて、興味・関心をもてるようにする。</li> </ul> <p>評価) 幼児：小学校の活動に興味・関心をもったか。児童：幼児と交流を通して係活動への意欲を高めたか。</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 事後の指導 幼児

- 帰りの会などで、5年生の読み聞かせや一緒に遊んで楽しかったことや嬉しかったことなどについて振り返り、「小学校に行きたい。」という気持ちをもてるようにする。
- 「就学時健康診断」はいろいろな小学校で受けるので、保護者の話をよく聞いて、しっかり受けるように伝える。

### 事後の指導

- 交流してきた感想などについて話し合い、「就学時健康診断」の係活動への意欲と責任感をもてるように自分のめあてをもって頑張ろうとする気持ちをもてるようにする。
- 来年入学して1年生になる幼児との交流活動を続けていきたいという気持ちをもち、最高学年に向けて、責任感を育てるようにする。



3歳児

4歳児

5歳児

1年生

興味・関心を  
もつ段階慣れ親しむ  
段階期待感を高  
める段階

## 幼児・児童の交流活動（例） 11月

幼児 「1年生といっしょにミニコンサートをたのしもう」 5歳児

児童 「幼児といっしょにミニコンサートをしよう」 1年生（指導時数1時間）

### 活動のねらい 幼児

1年生の音楽の授業に参加し、1年生と一緒に「ミニコンサート」を楽しむことを通して、小学校の児童や先生、教室、そこで行われている教育活動に慣れ親しむ。

### 活動のねらい 児童

幼児との「ミニコンサート」を行うことで、歌や合奏の楽しさや、コンサートの面白さに気付く。幼児に小学校で学んだ歌を教えてあげることで、自分の成長を感じ取る。

### 事前の指導 幼児

- 小学校の1年生から、「ミニコンサート」の招待状が届いたことを伝える。
- 「1年生と一緒にやる『ミニコンサート』とは、どのようなものなのだろう。」と投げかけ、園で行っているお誕生会などでの遊びや歌や合奏を通して、「ミニコンサート」への興味・関心をもたせる。

### 事前の指導 児童

- 音楽会を実施するために、日頃から練習を重ねてきた、歌や合奏について、幼児に「ミニコンサート」を教えてあげながら一緒に音楽を楽しむことへの見通しと興味・関心をもたせる。
- 幼児と一緒に遊びを楽しむことを考えて、「ミニコンサート」で使うものを工夫して作ったり次第を工夫したりすることを確認して、お互いが得意なものを披露するコンサートの計画を立てること。

### 交流の計画

時間	幼児の活動	児童の活動	○配慮事項・評価
10:40 ～ 11:25 3校時	1 学校を訪問する。 2 先生の話聞く。 3 めあてを確認する。 「1年生と一緒にミニコンサートを楽しみましょう。」 4 司会者から「ミニコンサート」の内容を聞く。 ・1年生の演奏を聴く。 5 歌または合奏を行う。 ・歌または合奏を披露する。 6 グループに分かれて遊ぶ。	1 幼児を迎え入れる。 2 先生の話聞く。 3 めあてを確認する。 「幼児と一緒にミニコンサートを楽しもう。」 4 司会者「ミニコンサートを始めましょう。」 ・次第の説明を行う。 ・鍵盤ハーモニカなどの演奏を披露する。 5 幼児の歌や演奏を聴く。 6 グループに分かれて遊	○学校の「ランチルーム」などを活用してもよい。 ○お互いが楽しい「ミニコンサート」にするように話をする。 ○児童が主体的に進められるようにする。 ○しっかり聞いている幼児や児童を認める。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルールや順番を守って1年生と一緒に遊ぶ。</li> <li>・ 「ハンカチ落とし」</li> <li>・ 「だるまさんがころんだ」など</li> </ul> <p>7 集合して感想を話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループごとに幼児1人がみんなの前で今日の楽しかったことを話す。</li> </ul> <p>8 1年生と一緒に歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園で歌っている歌を歌う。</li> </ul> <p>9 先生の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全員でお礼を言う。</li> <li>・ あいさつをする。</li> <li>・ 握手をして学校を後にする。</li> </ul>	<p>ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊びのやり方やルールを幼児に説明する。</li> <li>・ 幼児の実態に合わせてルールを工夫して遊ぶ。</li> <li>・ 「幼児・児童がともに楽しめる10の手遊び」から選んでもよい。</li> </ul> <p>7 集合して感想を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児の感想を聞く。</li> </ul> <p>8 幼児と一緒に歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児と一緒に歌える歌を選んで歌う。「幼児・児童がともに歌える10の歌」から選んでもよい。</li> <li>・ グループごとに1年生1人がみんなの前で今日の「ミニコンサート」の感想を話す。</li> </ul> <p>9 先生の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 代表者がおわりの言葉と言う。</li> <li>・ 握手をして幼児を送り出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前にグループ分けをしておく。</li> <li>○遊びのやり方やルールが分からない幼児には、先生たちに聞いてもよいと促す。</li> </ul> <p>評価) 幼児：小学校の活動に慣れ親しんだか。児童：幼児と楽しく工夫して遊んでいるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「ミニコンサート」を締めくくる歌を決めておく。</li> <li>○合奏を加える場合は、楽器の用意をする。</li> <li>○保育士や教員の役割を決めておく</li> <li>○次回の交流への期待をもたせる。</li> </ul>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 事後の指導 幼児

- 帰りの会などで、楽しかったことやうれしかったことなどについて振り返り、「また小学校へ行きたい。」という気持ちが高まるようにする。
- 日常の遊びの中で、「ミニコンサート」のような遊びにつながるような環境を整えて、小学校での「ミニコンサート」で学んだ経験を活かせるようにする。

### 事後の指導 児童

- 帰りの会などで、ミニコンサートの感想を発表し合うとともに、このあとも4月に入学する1年生の上の学年になることを伝え、進級に向けての自覚を高める。
- 「ミニコンサート」を実現した感想などをまとめて、幼稚園・保育園・こども園などへ届ける。



3歳児

4歳児

5歳児

1年生

興味・関心を  
もつ段階慣れ親しむ  
段階期待感を高  
める段階

## 幼児・児童の交流活動（例） 2月

幼児 「小学校を探検して授業を受けてみよう」 5歳児

児童 「幼児を学校案内して体験授業のお世話をしよう」 5年生（指導時数1時間）

### 活動のねらい 幼児

小学校の「体験授業」において、5年生と触れ合いながら活動したり授業を体験したりすることを通して、小学校の児童や教師、教室、そこで行われている教育活動に慣れ親しむ。

### 活動のねらい 児童

幼児の学校案内をしたり、一緒に授業を受けたりする活動を通して、幼児のことを来年の4月に入学してくる1年生として意識し、最上級生となることへの自覚を高めるようにする。

### 事前の指導 幼児

- 5年生から、「体験授業」の参加を呼びかける手紙が届いたことを伝える。
- これまでも「ミニコンサート」などで小学校へは行っているが、小学校の施設や児童の学校生活などの写真を掲載しながら、「学校にはどんな部屋があるか知っているかな。」などと投げかけ、小学校を訪問して授業を体験することへの興味・関心をもたせる。

### 事前の指導 児童

- 学級活動では、簡単な学校の案内をすることを計画する。
- 話し合いでは、幼児に「楽しかった。」と言ってもらえるにはどうすればよいかということを考え、話し合いを進める。
- 「体験授業」では、校内の案内から、クイズを出すなどして、幼児に達成感をもたせるような工夫をするように考えさせる。
- 校内案内では安全面に留意するようにする。

### 交流の計画

時間	幼児の活動	児童の活動	○配慮事項・評価
9:35 ～ 10:20 2校時	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校を訪問する。</li> <li>2 校長先生の話聞く。</li> <li>3 めあてを確認する。 「5年生と一緒に学校を探検して、小学校の授業を受けましょう。」</li> <li>・ 2人組になる。</li> <li>4 5年生と一緒に学校探検をする。</li> <li>・ 児童の提案に答えながら探検する。</li> <li>・ 音楽室や体育館などを回る。</li> <li>・ 探検の途中で会った学校の先生方にあいさつをする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 幼児を迎え入れる。</li> <li>2 校長先生の話聞く。</li> <li>3 めあてを確認する。 「幼児に学校を案内して授業を体験して楽しんでもらおう。」</li> <li>・ 2人組になる。</li> <li>4 幼児をつれて学校案内をする。</li> <li>・ 幼児の喜びそうな場所、興味をもちそうな場所を提案しながら案内する。</li> <li>・ 次の「体験授業」の答えになるように確認をしながら学校を案内する。</li> <li>・ トイレや水飲みにいきた</li> </ol>	<p>評価) 校長先生の話を中心して聞いているか。</p> <p>○お互いが楽しい「学校案内」や「体験授業」にするように話をする。</p> <p>○児童が主体的に進められるようにする。</p> <p>○事前にグループ分けをしておく。配慮の必要な幼児には保育士・教員などが付き添う。</p>

	<p>5 1年生の教室で体験授業を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 椅子にすわり正しい姿勢をする。</li> <li>・ 小学校の先生の話聞く。</li> <li>・ 学校探検のなかで見てきたことや小学校のことについての問題に答える。</li> <li>・ 挙手をして、立って発言をする。</li> </ul> <p>6 校長先生の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「体験授業修了証」をもらう。</li> <li>・ 幼児がみんなの前で今日の楽しかったことを話す。</li> <li>・ お世話をしてくれた児童へお礼を言う。</li> <li>・ 小学校の先生にお礼を言う。</li> </ul> <p>7 学校を後にする。</p>	<p>くなくかなどを確認して進める。使い方の説明も行う。</p> <p>5 体験授業のお手伝いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 椅子や机の正しい使い方、姿勢などについて教えてあげる。</li> <li>・ 先生の問題の意味が分からない幼児には、補助説明をしてあげる。</li> </ul> <p>6 校長先生の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童が今日の感想と来年の入学を待っているという言葉を言う。</li> </ul> <p>7 玄関まで手をつないでいってあげて見送る。</p>	<p>○多くの教師に校内の巡回などでかかわってもらおうとよい。</p> <p>○1年生の教室が空いている時間に実施するとよい。</p> <p>○小学校のことや学校探検で見てきたことについての問題を出す。</p> <p>○黒板や大画面テレビなどを使って分かりやすく工夫して問題を出す。</p> <p>○保育士や教員の役割を決めておく。</p> <p>○幼児に入学への期待をもたせる。</p> <p>評価) 幼児：小学校の活動に期待感を高めたか。児童：探検や体験授業を楽しく工夫して交流できたか。</p>
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 事後の指導 幼児

- 帰りの会などで、学校の施設などでおどろいたことや体験授業で楽しかったことなどについて振り返り、小学校生活への期待感を高めるようにする。
- 日常の遊びの中で、「小学校の生活」のような遊びにつながる環境を整えて、小学校での「学校探検」や「体験授業」での経験を活かせるようにする。



### 事後の指導 児童

- 帰りの会などで、「学校の案内」「体験授業」でのお世話の経験について感想を発表し合うとともに、このあとも4月に入学する1年生のお世話をして学校の最高学年になることを伝え、自覚を高める。



# 保護者との連携・理解啓発（例）

「食生活を振り返ってみましょう」（弁当参観と懇談会）

5歳児 6月

## ねらい

- 昼食時の様子を見ることで、食事のマナーや食への理解を促す。
- 小学校の栄養士のお話を聞くことで、食の大切さや栄養バランスのよいお弁当を知ったり、小学校生活での見通しをもったりする。

## 計画のポイント

- クラスの実態に応じて、参観する時間の活動内容を考える。
- 栄養士とよく話し合い、クラスや幼児の課題を、保護者が意識できるような内容にする。
- 事前に「参観のしおり」を配布し、参観してもらいたいポイントを分かりやすく示す。

## 参観のしおり

保護者に参観してもらいたいところ（保護者の工夫や努力しているところ、担任が課題と感じているところなど）を分かりやすく、ポイントを絞って示す。数日前に配布し、事前に読んでくることで、よく見たり考えたりしながら参観できるようにする。

## 参 観

昼食の準備（当番活動）、食べている様子、片付けなど、クラスの課題に合わせて参観内容を工夫する。

実際の姿に合わせて、普段の様子を伝えることや、どんな意図で行っているのかなど解説をすることで、保護者が理解したり、「家庭ではどうかな。」と振り返ったりできる。

## 参観のしおり

### 1 お弁当の指導で大切にしていること

- 食事のマナーを守ろうとする。（ひじはつかない、食事の途中で席を立たない、口に食べ物を入れたまま話さない、など）
- 就学に向け、決められた時間内に食事を終えるようにする。
- 当番の内容が分かり、グループのみんなと一緒に活動する。
- 当番の言葉に耳を傾け、姿勢を正したり、マナーを確認したりする。
- 苦手な食べ物にも挑戦してみようとする。

### 2 本時の流れ

時間	幼児の動き	見ていただきたいところ
11:10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手を洗う。うがいをする。</li> <li>・当番の幼児は自分の仕事をす（テーブルを拭く、やかんを運ぶ）</li> <li>・食事の準備をする（リュックや椅子を運ぶ、食事のセッティング）</li> <li>・当番は自分で考えたマナーを伝える。声をそろえてあいさつする。</li> <li>・全員で「いただきます」のあいさつをする。</li> <li>・食事をとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から食事の前に必要なことに取り組んでいますか。</li> <li>・自分が当番であるということを意識したり、幼児同士で知らせあったりし（「今日は〇〇ちゃんがお当番だよ」など）当番活動に取り組んでいますか。</li> <li>・「これから食事が始まる」ということを意識したり、周りの状況を見たりして動いていますか。</li> <li>・あいさつの当番の友達の声に耳を傾けたり、姿勢を正したりしていますか。</li> <li>・当番が自分なりに考えて、食事のマナーをみんなに伝えます。どんなことを言うか注目してみてください。</li> <li>・当番の言葉を受け止め、気持ちよくしっかりとあいさつしていますか。</li> <li>・すすんで食事をとっていますか。</li> <li>・友達と一緒に食事をすることを楽しんでますか。</li> <li>・椅子の座り方、はしの扱い等、食事のマナーはどうですか。</li> <li>・こぼしたものを自分のティッシュを使って拾ったり、台付記やぞうきんを使って拭いたりしていますか。</li> </ul>

# 栄養士のお話を聞く

お弁当の量、内容、朝食の大切さ、噛む大切さ、小学校での子どもたちの様子、給食で気を付けていることなど、保護者に伝えたいことを栄養士と話し合い、当日の内容を決める。質問できる時間をつくり、保護者の食に関する悩みを解決したり、他の保護者の話を聞くことで新たな課題を見つけたりできるようにする。



表や図、写真など、視覚的なものを使うと、分かりやすいです。

食後の身体の温まり方

お弁当の内容

おべんとう通信

1. 食べたお弁当の栄養を吸収し、体温を上げます。(体温が上がることで、消化がスムーズになります。)

2. 食べたお弁当の栄養を吸収し、体温を上げます。(体温が上がることで、消化がスムーズになります。)

お弁当が、これだけの栄養を、含んでいます。

知っていますか？ ひみこのはがいーせ

**ひみ** 肥満防止 よくかむことで、脳の満腹中枢が刺激され、満腹感を得られます。そして、食べ過ぎを防いでくれます。

**の** 味覚の発達 よくかむことで、食べ物の味が、よくわかるようになり、味覚が発達していきます。

**はが** 言葉の発音 よくかむことで、口のまわりの筋肉が発達していきます。はっきりとした発音や表情が豊かになります。

**いーせ** 脳の発達 脳の血流量が増え、活性化し、記憶力がアップするなど、よい働きがあります。

だるまは、食物の中に含まれた細菌やがん予防物質を減らしてくれる作用があります。

よくかむと、消化液 胃腸快調の分泌が盛んに行われ、食べ物をより消化しやすくなり、胃腸への負担が軽くなります。

力いっぱい鍛えたり、全力投球遊びのために、じょうぶな歯としゃべりかたが大切になります。

(学校食育研究会「よく噛む」※大塚園)

弥生時代

食事時間 51分 かむ回数 3990回

現代

食事時間 11分 かむ回数 620回

噛む大切さ

出典『育てよう かむ力』少年写真新聞社刊より

## 期待される保護者の姿

- 自分の子どもが食事をする様子を客観的に見ることで、家庭で気を付けたいこと(食べる量や食事の内容、マナーなど)が見えてくる。
- 小学校での子どもたちの様子や給食で気を付けていることなどを知り、食についての大切なことや発達の見通しなどが見えてくる。
- 普段気になっていることなどを、専門の先生から直接教えていただくことで、すぐに活かすことができる。また、活かしたくなる。

食に関して、保護者と園とが連携して取り組みやすくなる。

3歳児  
4歳児  
5歳児  
一年生

## 保護者との連携・理解啓発（例）

「入学に向けて、小学校の生活や学習について保護者に理解してもらいましょう」（保護者会の工夫）

5歳児 9月～11月

### ねらい

- 保護者に、小学校の生活や学習について具体的に理解してもらうことで、就学時健康診断を控えて入学に向けて抱えている不安や疑問を解消するとともに、入学までに幼児に身に付けておきたい基本的な生活習慣や学習面の資質・能力について見直し、家庭教育の一層の充実に活かすようにする。

### 計画の流れ

- 小学校の教員などが、直接、保護者に「小学校の1日の流れ」「1年生の主な学校行事」などについて説明する機会を設定する。
- 保護者に対して事前のアンケート調査を行い、小学校の生活や学習の様子について不安に思っていることや疑問に思っていることを把握し、その内容を「Q&Aの形式」で説明する。

### 保護者会の流れと留意事項

#### 保護者会の流れ

- 1 あいさつ
- 2 小学校の生活や学習の様子について
  - 1) 小学校の1日の流れについて
  - 2) 1年生の主な学習内容について
  - 3) 1年生の主な行事について
  - 4) 保護者の疑問に対して
    - 登下校は？
    - 休み時間の過ごし方は？
    - トイレの行き方、使い方は？
    - 給食の時間のめやすは？
    - 道具の準備は？
    - 家庭学習の時間は？
    - 学童クラブの行き方は？
- 3 質疑応答
- 4 まとめ

資料の内容はポイントのみを示し、保護者が小学校の生活や学習の様子についてイメージがもてるものがよいでしょう。

#### 留意事項

- ・ 日頃、連携の取組をしている小学校の教員から話をしてもらうとよい。事前に打合せを行い、話してもらう内容や時間について共通理解を図る。園長から校長へ小学校の教員の来園の依頼を行う。
- ・ 小学校の生活や学習の様子などの簡単な資料を配布して、保護者に具体的なイメージがもてるようにする。
- ・ カリキュラムの「小学校入学までに一人でできるとよいこと」を活用するとよい。
- ・ 開催については保護者会以外の機会なども含めて柔軟に設定するとよい。
- ・ 保護者から質問が出ない場合には、小学校の生活や学習の様子についての感想を話してもらうようにする。
- ・ 小学校の生活や学習の様子についての説明を踏まえ、入学までに幼児に身に付けておきたい基本的な生活習慣や学習面について見直し、家庭の協力が大切であることを伝えていく。

## 保護者との連携・理解啓発（例）

「入学当初の子供へのかかわり方について保護者に理解してもらいましょう」(保護者会の工夫)

5歳児 1月

### ねらい

- 幼児が小学校の生活や学習に適応できるようにするための保護者のかかわり方について理解してもらうことで、入学当初の家庭の取組について見通しをもてるようにする。

### 計画の流れ

- 卒園した現在小学校1年生の保護者などが入学前の幼児の保護者に対して、小学校の生活や学習に適応できるようにするための保護者のかかわり方について助言する機会を設定する。
- 小学校の生活や学習への幼児の適応について保護者が心配に思っていることを「小学校入学までに一人でできるとよいこと」を活用することで、課題意識をもってグループでの懇談に参加できるようにする。

### 保護者会の流れと留意事項

#### 保護者会の流れ

- 1 あいさつ
- 2 小学校の生活や学習への適応について
  - 1) 心配に思っていることを「小学校入学までに一人でできるとよいこと」を見て振り返る。
- 3 現在小学校1年生の保護者を交えてのグループ懇談
  - 1) 入学当初の学校生活への適応について心配に思っていることを話し合う。
  - 2) 現在小学校1年生の保護者から、入学当初の保護者のかかわり方について体験談や助言を聞き、自由に質問する。
- 4 各グループからの発表
- 5 まとめ



#### 留意事項

- ・ 日頃の幼児の様子や小学校の教育活動を踏まえるとともに、「小学校入学までに一人でできるとよいこと」を活用し、小学校の生活や学習への適応について特に心配に思っていることを振り返るように伝える。
- ・ 「小学校入学までに一人でできるとよいこと」を基にして、保護者一人一人が入学当初に心配に思っていることを積極的に話すように促す。
- ・ グループごとに保育士や教員も入り、保護者が安心して懇談できるような雰囲気をつくる。
- ・ 卒園した保護者などに協力を依頼するとよい。
- ・ グループごとの懇談内容のポイントについて代表の保護者に発表してもらい、他のグループの保護者と共有できるようにする。
- ・ ホワイトボードなどに発表内容のポイントを書き、保護者が必要に応じてメモできるようにする。

